

駿河ほねほね団報告

佐々木彰央・高山達子



骨格標本撮影風景



学習会 講師西岡研究員の話聞く

骨格標本ライブラリについて

わたしたちはこれまで県内から得られた数多くの野生動物の骨格標本を作成し、教育普及活動に役立ててきました。そして、2016年度には笹川財団から助成金を受けて骨格標本ライブラリをオープンさせました。ここでは一つの骨からでも種類を特定できるホームページ作成を目的に、モグラ類が属するトガリネズミ形目の骨一つひとつを多角から撮影し、公開してきました（詳しくは<https://mshakio10.wixsite.com/suruga-hone-hone>をご覧ください）。成果は日本哺乳類学会 2016 年度大会や笹川財団の報告書にまとめましたが、実際に行ってみると数多くの問題にぶつかりました。特に立体的な構造を前後左右上下方向から撮影した6枚の画像からだけでは閲覧者が理解しにくいという問題がありました。そこで、写真だけではなく3Dモデルを加えて、ライブラリをより充実化させていければと考えています。3Dモデルを作成する方法はいくつかありますが、外側だけを撮影するならフォトグラメトリーが有効です。手始めとして、これまでに作成したツキノワグマやイノシシ、ニホンジカの骨を撮影し、アップしていければと考えています。

学習会について

12月22日に地質化石研究部会と合同でナウマンゾウを話題とした勉強会が開かれました。講師は西岡佑一郎研究員によるもので、



標本作製作業を行う様子

ゾウの進化について学びました。今後も標本作成だけでなく、勉強会を交えて活動を進めていければと思います。

1月2月の活動

アライグマとアナグマの骨格標本作りの続きを行なう人と、有害駆除で捕まえられたヒヨドリを1人1羽担当して、骨格標本作成をする人に分かれて、作業をしました。ヒヨドリはちょっと骨折しているところもありましたが、1人でじっくりとヒヨドリに向き合い、よく観察しながらそれぞれのペースで解剖が出来、とても、有意義な時間になったようです。それと並行して、骨格標本ライブラリの為の、ニホンジカの骨の撮影をしました。上手く3Dモデルになると良いのですが、今後の展開が楽しみです。